



令和 8 年 7 月 27 日(月)  
しなやかに生きる子ども

2 学年 算数科  
「かけ算 九九づくり」

**「ここに移動させるとぴったりになって、かけ算が見えてきた。」**

算数科では、問題解決の過程から「違い」に気付き、算数的な意味理解を深める学びを目指します。「かけ算 九九づくり」では、図の中から一つ分と幾つ分を見だし、数のまとまりに気付くことで、既習の九九から類推して考えたり、かけ算の同数累加を見つけ出したりしながら、新たな考え方に繋げていきました。単元を通して、アレイ図を活用してかけ算の意味理解を深めていくことで、「不揃いに並ぶアレイ図にも九九が活用できそうだ。」という思いをもちながら取り組むことができました。また、式と図を関連付けながら思考し、それを表現したり、友達と伝えあったりする中で、よりよい解決方法を見だし、新たな考え方に気付く姿が見られました。

私たちは、自分の意思をもって粘り強く学ぶ力強さと仲間の考えを受け入れながら学んでいく柔軟さを兼ね備えた「しなやかに生きる子ども」を育みます。そのために、他者とながかり合い、“楽しい”を見いだす学びを大切にしていきます。多様な個を認め、高め合いながら学べるように「教材化」「教師の立ち位置」の二つの視点から、子ども一人一人を大切に授業の在り方を探っていきます。

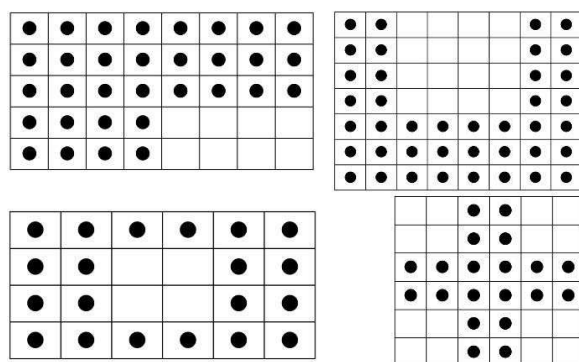
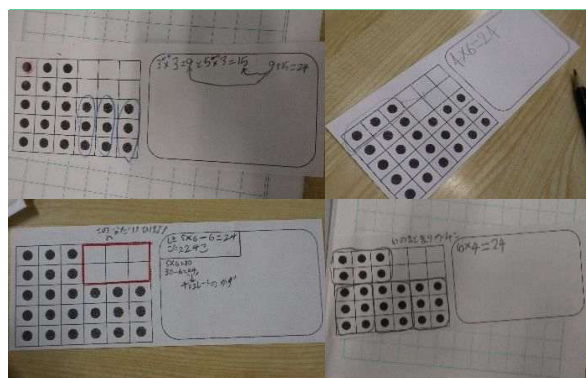
# 算数科 2年「かけ算九九づくり」より

## 視点1

### 多様な個が生きる教材化

本単元では、一つ分と幾つ分の数のまとまりを見いだすことができるように、単元を通して「アレイ図」を活用していきました。前単元とのつながりや不揃いに並ぶアレイ図にも、「九九が活用できそうだな」という思いをもつことができました。また、式と図を関連付けながら思考し、それを表現したり、友達と伝え合ったりする中で、よりよい解決方法を見だし、新たな考え方に気付く姿を目指しました。

本時では、学級の実態も考慮し、同じ数のまとまりが見やすい数値・配列を選択しました。縦や横に分ける考え、移動させて一つのまとまりにする考え、全部ある状態から引く考えなど、多様な見方・考え方が生まれました。後半では、図の形や数が違うアレイ図を扱い、どの考え方が使えるか見通しをもってから取り組みました。その考えを用いた理由を交流することで、新たな考えを見いだしたり、気付いたりすることができました。



## 多様な個が生きる教師の立ち位置

## 視点2



九九が使えるそうだなという思いをもたせるために、アレイ図を縦の列から提示し、横の列、欠けている箇所順で、提示しました。「5の段が使えるそうだな」「3の段も見えてきたよ。」「先生が食べちゃったんだ。」などの言葉を拾い、既習事項との結びつきを強調したことで、図と式を関連付けて考えることができました。

また、紙面上で同じ数のまとまりを見いだすことができない子が自分の考えを表出したり、子ども同士の考えを繋げたりするために、操作可能なマグネットボードを活用しました。個別探求の時間で見いだした考え方を共有する中で、友達の考えを解釈する場（式を読む、図から読む、身振り手振りから読む）を意図的に設定しました。子どもの言葉をつないで説明していくことで、「数のまとまりが見えた。」「その方法は思いつかなかった。」など、より理解を深めることができました。

# 算数科 3年「分数 ～分割分数から量分数の意味理解へ～」より

## 視点1

## 多様な個が生きる教材化

本単元では、基の大きさに着目して分数の意味理解（量分数）を深めていく過程を大切にして学びを進めました。

そのために、2学年の簡単な分数の振り返りから単元をスタートしました。「半分は $1/2$ 。」「同じ $1/2$ でも形は違う。」「形は違うけど、折り紙の大きさ（基の大きさ）が同じだから大きさは同じ。」など、折り紙を用いて分割分数の既習の想起を行いました。

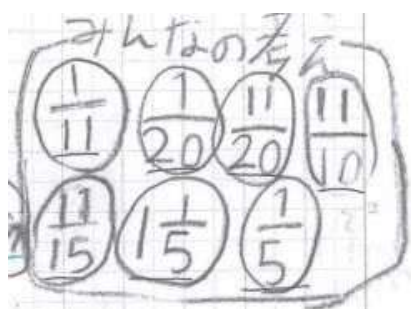
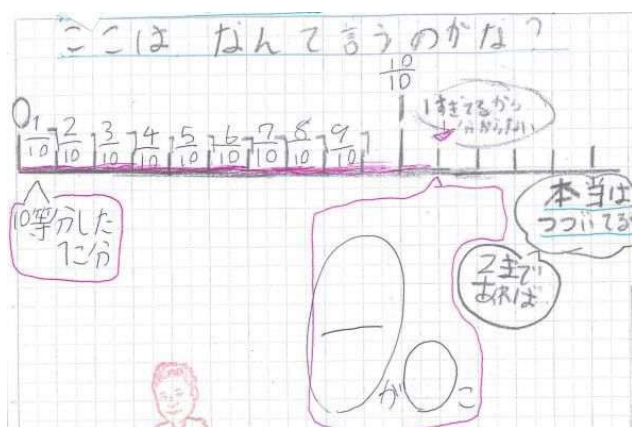
量分数の導入では、基の大きさが違うテープ（100 cmと120 cm）を無作為に子ども達へ提示し、「 $1/4$ を作りましょう。」とだけ伝えました。子ども達は、 $1/4$ を作る過程で友達のテープとの長さの違いに気付く、「どうして長さが違うのか。」という問いをもちました。

そして、分割分数の既習を用いながら、「基の大きさ」に着目して問題を解決していく姿が見られました。



## 多様な個が生きる教師の立ち位置

## 視点2



どの子も共通の土台で分数の意味理解が図ることができるように、ノートに数直線を描いて考える場を設定しました。教師は、数直線をスモールステップで作成する過程を大切にしました。単元の中で繰り返し数直線を用いて解決する場を意図的に設けることで、子ども自身が数直線で考えると分数の理解に役立つという実感がもてるようにしました。

また、単元を通して友達がなぜそう考えたのかを解釈する時間（友達の考えを自分なりの言葉で表現する。）を大切にしました。

本時の1より大きい分数を考える学習では、「 $11/10$ 」の正答に対して「 $11/11$ 。 $1/10$ 。 $1/11$ 。」などの多様な誤答が表出しました。この場面でも「11等分だから11分のって考えたんだ。」「1を超えたから、 $1/0$ ってのもどったのかも。」と友達の考えを解釈しながら学びを深めることができました。